

[5] 研究開発単位IV「GLOBAL STUDIES」

(1) 6つの資質・能力を育てる授業改善の取組

このプロジェクトは、中学高校の各授業の中で、本校の定める資質・能力を向上させ、未来航路やSOZAN国際塾での取組の基礎を作ることを目標としている。学校全体で育成する6つの資質・能力を各教科に落とし込み、到達度目標を記した「SOZAN Global Can-do List」を作成した。この中で各教科の「目指す生徒像」を設定し、日々の授業に落とし込み、このリスト活用しながら、生徒側・指導者側両方のPDCAを確立していく。これらのことを達成するため、次の①～⑥を行った。

①「SOZAN Global Can-do List」の活用

各教科主任をメンバーとし、リストを活用した授業実践を行い、指導と評価の一体化を目指した。

②中高の統一テーマの設定

4月に、取組の目標となる中高の統一テーマを次のように設定した。

幅広く深い教養を有し、自ら課題を設定し、その解決のためクリエイティブに思考し、ダイナミックに行動するグローバル・リーダーの育成に向けた取組
～SOZAN Global Can-do Listを活用した指導と評価の一体化～

③アドバイザースタッフによる指導助言

6つの教科でアドバイザースタッフを大学にアドバイザースタッフ(全6名)を依頼し、1年を通じて、授業改善に向けた指導をしていただいた。

④研究計画書の作成

各教科の取組が計画的な取組となるように、5月初旬に各教科が「研究計画書」を作成し、1年間を通して計画的に取り組めるようにした。

⑤「岡山操山中学校・高等学校教育研究会」の開催

取組の成果を公表する場として、11月を中心として7つの教科が中高の授業を外部に公開した。校外より計64名(アドバイザースタッフを含む)の参加があった。この研究会の開催により、研究成果を外部に発信できたばかりでなく、外部参加者を含んだ研究協議により、新たな課題を発見するとともに貴重なアドバイスをいただき、研究を深めることができた。

⑥研究紀要「操山論叢」の発行

6つの教科の研究成果を研究紀要「操山論叢」にまとめ、年度末には県内の教育機関(岡山市内の中学校、県下の高等学校等)に配付して、研究の成果を普及する予定である。

(2) 各教科の実践(研究授業)

①国語：11/1中：「姫の犯した罪と罰」というキャッチフレーズについて考える。

高：読書会を通して複数の文章を関連付け、「AIと人間社会」について考えを深める。

②地歴公民：11/21中：室町文化の特色をまとめよう。

高：イスラームの拡大がユーラシアの各地にもたらした変化について諸資料を読み解き、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現する。

- ③数学：11／22 中：四角形の鳩目返しによって変形し、長方形、ひし形をつくる条件を見つけ、説明することができる。
高：問題を解くために必要な条件を考えることができるようになる。
- ④理科：10／30 中：身のまわりの現象（光）について説明できる。
高：温度が一定のとき、気体の体積と圧力の関係を見出すことができる。
- ⑤保健：9／21 高：職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。
余暇を積極的にとることの意義について説明できる。
- ⑥芸術（音楽）：11／20 中：「白鳥の湖～終曲」を聴き、最後の場面の結末を考えよう。
その根拠を、音楽の諸要素の言葉を使って説明しよう。
- ⑦英語：6／27 高：スタンフォード大学で実際に行われた授業の問いの内容を理解し、自分ならその問いにどう取り組むか、他者と協力しながら解決法を探る。
授業内容から、これから必要な資質・能力を考え表現することができる。
- 11／17 中：よりよいプレゼンになるように、改善点を見つけて工夫する。
高：マンデラの言う”One Team、One Country”の意味するところを英語で書いて説明する。

（3）英語力を向上させる取組

教科のテーマを「技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究～生徒の振り返りを活用した授業改善」と設定し、英語科の統合技能 Can-do List「SACLA」と「SOZAN Global Can-do List」の活用、中高接続を意識した授業実践の公開、学習者と授業者のPDCAの確立を目標として次の取り組みを行った。

①学習者の自己評価シート(Achievement Check Sheet)の工夫と改善

学習者のPDCAを確立するために、各レッスンの終わりに、レッスンのテーマを使って活動を行い、そのパフォーマンスを自己評価する時間を全学年で実施した。自己評価シート(Achievement Check Sheet)をより簡潔にし、技能と資質がバランスよく測れるシートの作成し、学習者の到達度をみながら活動内容を考える下地ができた。

②自己評価シートの自由記述を活かした授業改善

自己評価シート(Achievement Check Sheet)の自由記述から生徒の変容を読み取り、GTECの技能評価とどのような関連性があるか考え、各年次での目標をはっきりさせた。

③GTECを活用した技能面での客観的な指標による評価

客観的な指標としてGTECを用いて4技能評価を行っている。3年生は6月、1・2年生は12月にGTECを実施し、数値的な変容をみた。